

# 経済指標

## 1 経済指標で見る「地域経済情勢」

### ◆ 日本経済（内閣府「月例経済報告」[2019年7月]）◆

景気は、輸出を中心に弱さが続いているものの  
緩やかに回復している ※5月に下方修正

**個人消費** ※（ ）内は、2019年4月以降の判断変化

- ・ 持ち直している（2018年1月以降、判断を維持）

**企業活動**

- ・ 生産はこのところ横ばいとなっているものの、一部に弱さが続いている  
(5月に下方修正された後、7月に上方修正)
- ・ 業況判断は製造業を中心に慎重さが増している（4月、7月に下方修正）
- ・ 設備投資はこのところ機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向（5月に下方修正）

### ◆ 和歌山県経済 ◆

個人消費・企業活動の一部に弱さも見られるが  
和歌山県経済は総じて持ち直している

**個人消費**

- ・ 百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は、8か月連続で前年を下回った
- ・ 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、1～6月累計）は、前年同期比2.3%増
- ・ 新設住宅着工戸数（1～6月累計）は、前年同期比3.5%減

**企業活動**

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、前月比2.5ポイント上昇
- ・ 公共工事請負金額（4～6月累計）は、前年同期比プラス43.3%と大幅増

### ◆ 大阪府経済 ◆

世界経済の減速により、企業活動には一部弱さも見られるが  
個人消費は持ち直しており、大阪府経済は緩やかに回復している

**個人消費**

- ・ 百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は、5か月連続で前年を上回った
- ・ 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、3か月連続で前年を上回った

**企業活動**

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、3か月連続で上昇し、高い水準にある
- ・ 公共工事請負金額（4～6月累計）は、前年同期比3.2%増
- ・ TDB景気DI（6月）は、昨年12月以降、下降傾向にある

# 経済指標

## 2 経済指標で見る「和歌山県経済」

個人消費・企業活動の一部に弱さも見られるが  
和歌山県経済は総じて持ち直している

和歌山県に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

<p>《個人消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は、8か月連続で前年を下回った。</li> <li>○ 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、1～6月累計）は、前年同期比2.3%増。</li> <li>○ 新設住宅着工戸数（1～6月累計）は、前年同期比3.5%減。</li> </ul>	
<p>《企業活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、前月比2.5ポイント上昇。</li> <li>○ 公共工事請負金額（4～6月累計）は、前年同期比43.3%増と大きく増加。</li> <li>○ TDB景気DI（6月）は2か月ぶりに上昇。見通しも6か月後まで上昇。</li> </ul>	
<p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消費者物価指数（和歌山市、6月）は、コアコアCPIが2か月連続で下降。</li> <li>○ 有効求人倍率（6月）は、1.44倍と高水準（約45年ぶり）。</li> <li>○ 家計消費支出（除く住居等、5月）は3か月ぶりに前年を下回った。</li> </ul>	

和歌山県の経済指標の概況変化(前年同月との比較 ※一部は前月比較)

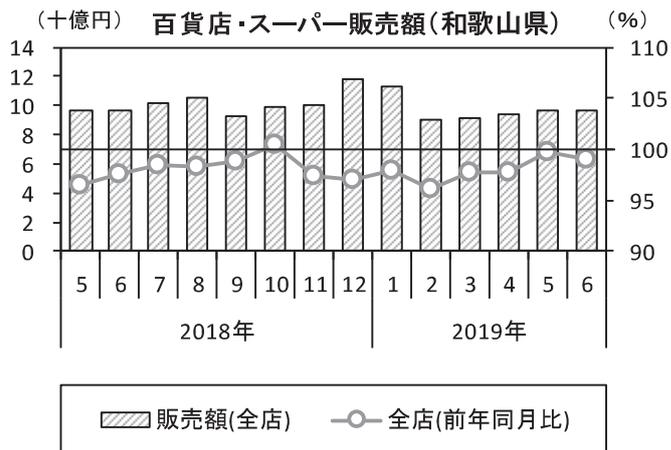
		2018年												2019年					
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
個人消費	百貨店・スーパー販売額(全店)	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●				
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	●				
	新設住宅着工戸数	○	○	●	●	○	●	○	-	●	●	○	○	●	●				
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	○	●	○	●	●	●	●	●	●	○	○	●					
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	●	○	○	●	○	○	●	●	●	○	●	○					
	公共工事請負金額	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○	○				
	TDB景気DI ※前月比	○	●	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○	●	○				
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	-	●	●	○	●	●	●	-	●	○	-	○	●	●				
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

## 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は前年比1.0%減。販売額が前年を下回るのは8か月連続。スーパーでの販売額が減少している。6月の県内の天候は、日照時間が多く、気温が高めに推移し、販売額への悪影響は見られなかった。その一方で、コンビニ・ドラッグストアとの競合は激化しており、この点が販売額減少につながったものと考えられる。

近鉄百貨店和歌山店の販売額（6月）については、2か月連続で前年を上回った。

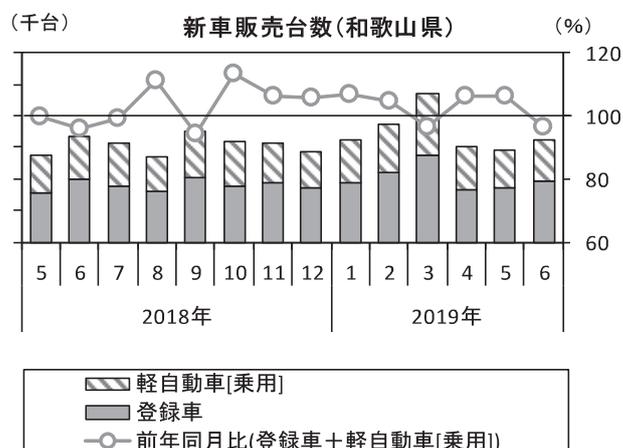


(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

## 新車販売台数

新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、3か月ぶりに前年を下回った（前年比3.7%減）。登録車（軽自動車の規格を超える大きさの車）の登録台数が前年比2.2%減（減少は3か月ぶり）、軽自動車[乗用]の販売台数は前年比5.9%減（減少は3か月ぶり）となった。

ただし、2019年1～6月期累計の販売台数については、前年同期比2.3%増となっており、各社の新型車投入効果もあり、増加傾向を維持している。

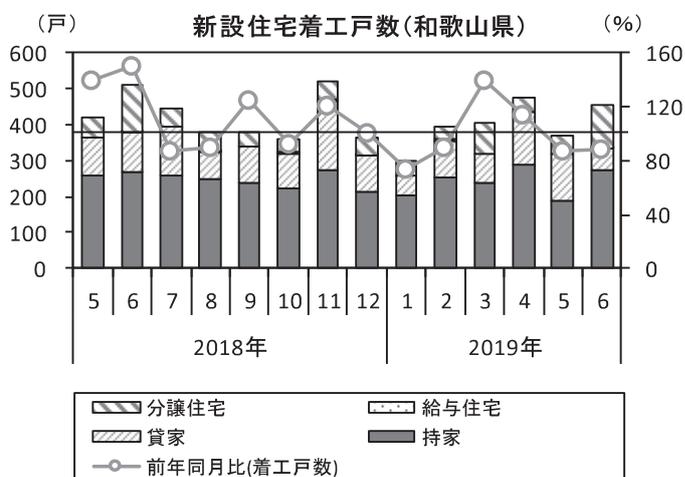


(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

## 新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（6月）は前年比11.0%減と2か月連続で前年を下回った。前年同月において、「貸家」、「分譲住宅」が多く着工した反動もあり、減少となった。

1～6月期累計の着工戸数については、前年同期比3.5%減となっている。2017年以降、増加傾向にあった住宅着工戸数だが、このところやや減少傾向が見られる。ただし、減少しているのは「貸家」、「分譲住宅」であり、「持家」は増加している。また、地域別では、和歌山市は減少しているが、海南市、橋本市、田辺市では増加している。

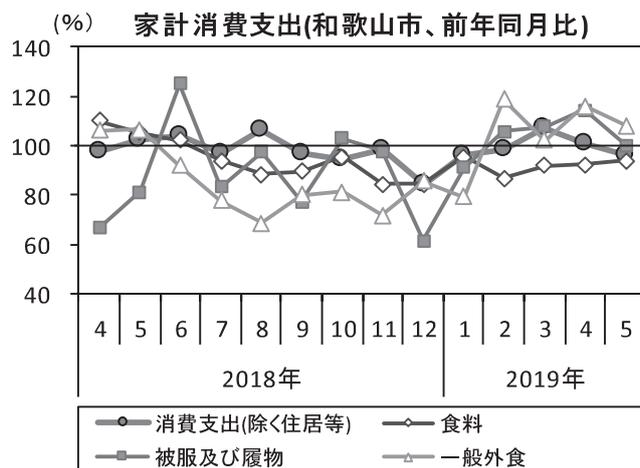


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

## 家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、5月）は、3か月ぶりに前年を下回った。「一般外食」への支出は4か月連続で前年を上回ったが、「食料」全体での支出は11か月連続で前年を下回っている。また、「パック旅行費」も前年に比べて大きく減少した。

※調査対象の世帯が91世帯と少ない点には注意が必要



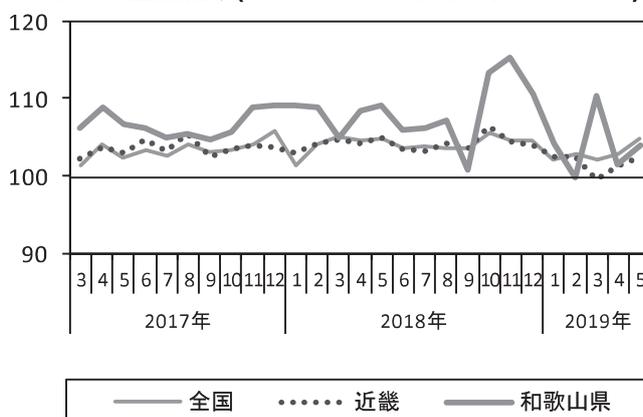
(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

## 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（5月）は前月比2.5ポイントの上昇となった。化学工業、はん用機械工業、繊維工業の指数上昇が全体をけん引した。ただし、鉄鋼業や電気機械工業、生産用機械工業、食料品工業など、多くの業種で生産指数は低迷している。

県内製造業と結びつきの強い近畿地区の生産指数は2か月連続で上昇しているものの、生産用機械工業、化学工業など一部の業種に弱さが見られる。また、アジア（中国含む）向けの輸出額は減少傾向にあり、加えて、米中貿易摩擦は激化の一途をたどっている。このことから、近畿地区の生産活動は今後も弱含むことが予想され、県内生産活動への悪影響が懸念される。

鉱工業生産指数(2015年=100、和歌山県は2010年=100)

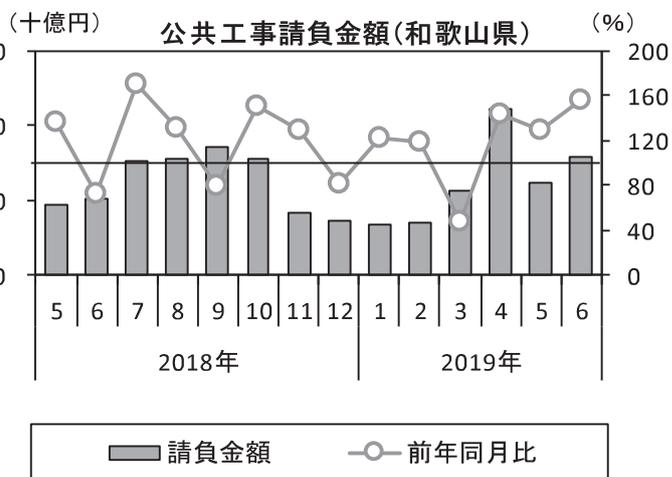


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」和歌山県調査統計課ウェブサイト

## 公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年比56.5%増となり、3か月連続で前年を上回った。4～6月累計での請負金額は前年同期比43.3%増となっており、大きく増加している。

地区別でも、新宮地区、岩出地区、田辺地区、和歌山市地区など多くのエリアで請負金額が増加しており、工種別でも、土木・建築工事だけではなく、管工事・電気工事の金額も増加している。



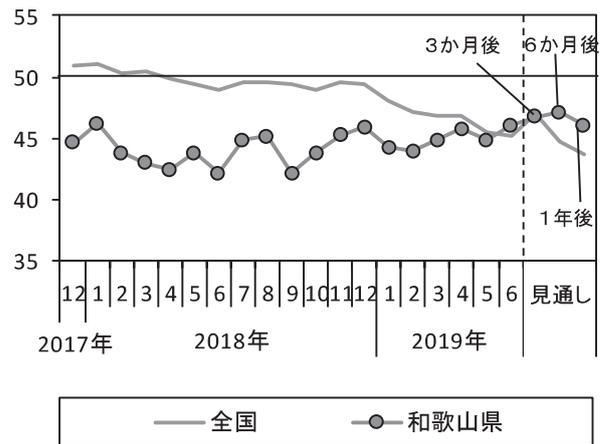
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

## 景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6 月の景気 DI は 46.0 で 2 か月ぶりに上昇した。建設業、卸売業などで景気 DI が上昇した。先行き見通しについても、景気 DI は 6 か月後まで上昇する模様で、製造業、卸売業、運輸業で景気 DI の水準がやや高い。ただし、帝国データバンクは、10 月の消費増税などを踏まえ、県内景況は一進一退を続けながらも緩やかな低下が予想されるとしている。

TDB 景気 DI (判断の分れ目は 50)



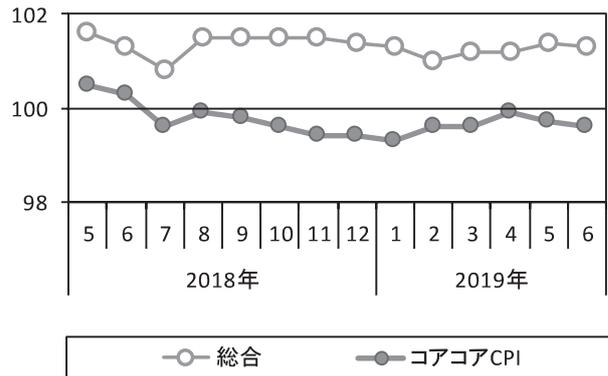
(資料) (株)帝国データバンク

## 消費者物価指数

消費者物価指数 (和歌山市、6 月) は総合ではほぼ横ばいとなる一方、コアコア CPI は 2 か月連続で下降した。生鮮食品価格が上昇する一方で、電気代・ガス代は 3 か月連続で下降し、通信会社の新料金プラン導入により携帯電話の通信料金が前年比 4.7% の下降となった。

上昇基調にあった生鮮食品を除く食品価格も横ばい傾向にある。

消費者物価指数(和歌山市、2015年=100)



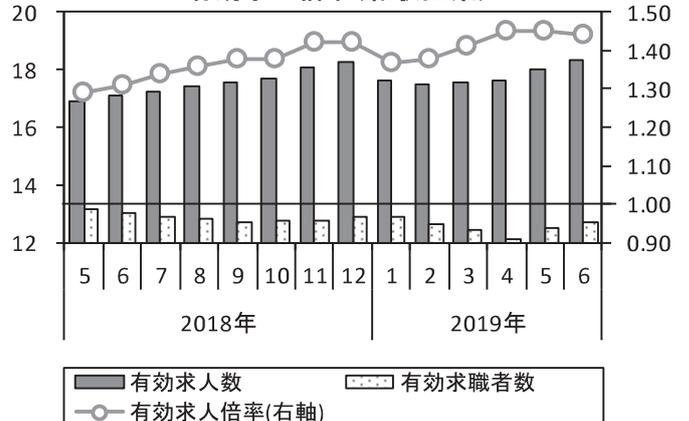
(注) コアコア CPI は食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。  
(資料) 総務省「消費者物価指数」

## 有効求人倍率

有効求人倍率 (6 月) は前月から 0.01 ポイント下降するも、約 45 年ぶりの極めて高い水準にある。有効求人数については 1963 年の調査開始以降で最も多い水準となっている。建設業、製造業、卸売業、小売業、宿泊・飲食業等で新規求人数が増加している。

その結果、企業が希望通りの人員数を確保できたかどうかを数値で表した「充足率」は極めて低い水準にあり、「人材確保難」は深刻な状況にある。

有効求人倍率(和歌山県)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

# 経済指標

## 3 経済指標で見る「大阪府経済」

世界経済の減速により、企業活動には一部弱さも見られるが  
個人消費は持ち直しており、大阪府経済は緩やかに回復している

大阪府に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は、5か月連続で前年を上回った。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、3か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（1～6月累計）は、前年同期比8.8%減。

---

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は3か月連続で上昇し、高い水準にある。
- 公共工事請負金額（4～6月累計）は、前年同期比3.2%増。
- TDB景気DI（6月）は、昨年12月以降、下降傾向にある。

---

《その他》

- 消費者物価指数（大阪市、6月）は、コアコアCPIが2か月連続で下降。
- 有効求人倍率は、高い水準で推移している。
- 家計消費支出（除く住居等、5月）は、4か月連続で前年を上回った。

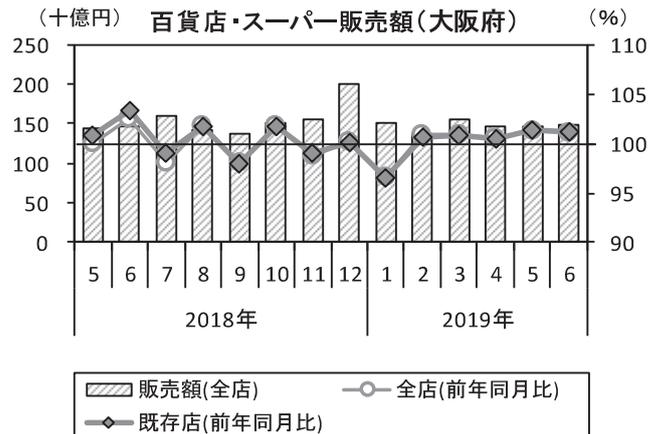
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2018年												2019年					
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
個人消費	百貨店・スーパー販売額(全店)	○	○	●	○	●	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○			
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○	○	○			
	新設住宅着工戸数	○	○	●	○	○	●	○	○	○	○	●	○	●	●	●			
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	●	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○			
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	●	○	○	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○	○			
	公共工事請負金額	○	○	○	●	●	●	●	●	○	○	●	○	○	○	●			
	TDB景気DI ※前月比	●	●	-	○	●	●	○	○	●	●	○	●	●	●	●			
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	○	●	●	○	●	○	●	-	●	○	○	○	○	●	●			
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

## 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額(全店、6月)は、前年比1.1%増となり、5か月連続で前年を上回った。スーパー販売額が減少傾向にある中、百貨店販売額が増加している。訪日外国人向けの免税品売上高が増加していることに加えて、株価上昇を背景に、高額品の販売も好調だった。雨が少なく、暑い日が続いたことで、夏物衣料品の売上高も増加した。



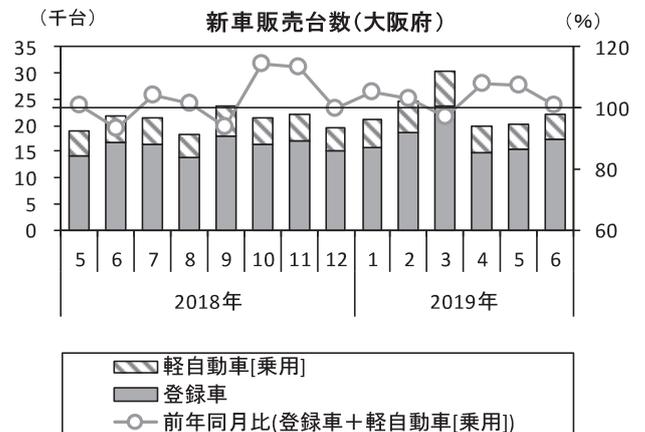
(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

## 新車販売台数

新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、6月)は前年比1.0%増となり、3か月連続で前年を上回った。

登録車(軽自動車の規格を超える大きさの車)の登録台数が前年比4.5%増(増加は3か月連続)、軽自動車[乗用]の販売台数は前年比9.8%減(減少は3か月ぶり)となっている。

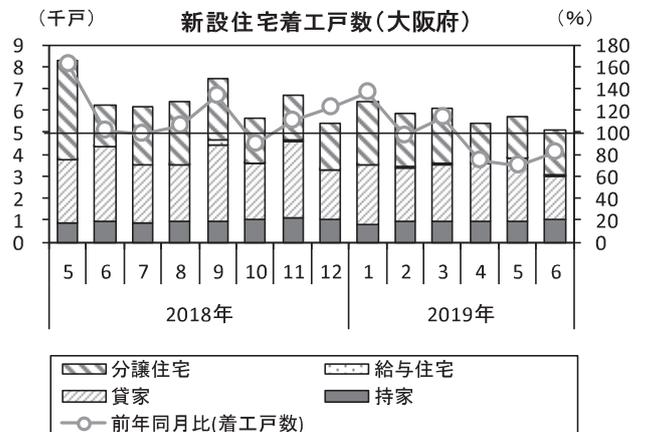
1～6月の累計販売台数は前年同期比3.0%増となっており、登録車における各社の新型車投入効果もあり、増勢が続いている。



(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

## 新設住宅着工戸数

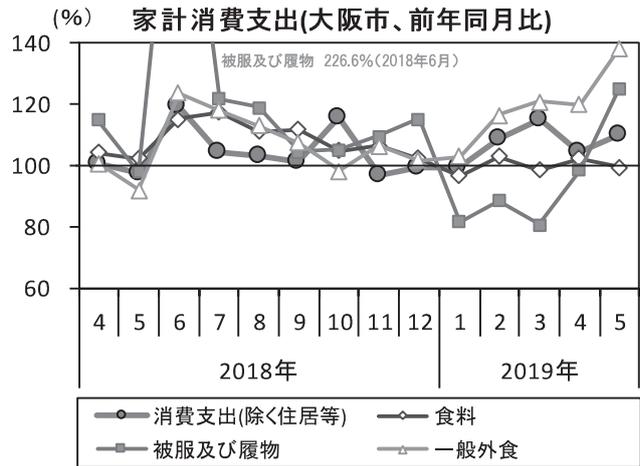
新設住宅着工戸数(6月)は前年比18.7%減となり、3か月連続で前年を下回った。1～6月累計の着工戸数は前年同期比8.8%減となっている。「持家」は増加傾向を維持する一方で、「分譲住宅」、「貸家」が減少している。「貸家」の減少については、金融機関が個人のアパート建設に対する融資条件を厳格化していることが要因と考えられる。「分譲住宅」については、2018年に府内で分譲マンションの着工が多く見られた反動減と考えられる。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

## 家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、5月）は、4か月連続で前年を上回った。「一般外食」を含む「食料」への支出額が底堅く推移していることに加えて、大型連休の効果もあり、パック旅行費等の「教養娯楽」への支出額が増加した。また、住居設備の修繕・維持費用なども増加している。



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

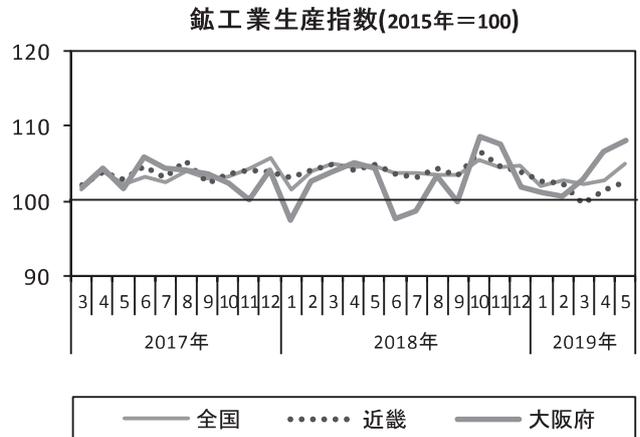
## 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数は、昨年後半から2月にかけて下降傾向が見られていたが、その後は3か月連続で上昇しており、高水準となっている。

近畿地区の輸出額(6月)は、アジア(含む中国)向けを中心に減少傾向にあり、さらに鉄鋼業、化学工業、汎用・業務用機械工業などでは、在庫指数が上昇している。

こうした懸念材料があるものの、電気・情報通信機械工業、生産用機械工業、輸送用機械工業などで生産指数が上昇しており、全体の生産指数を押し上げた。

ただし、今後、国外では米中貿易摩擦が激化し、国内では10月に消費増税が予定されているなど、大阪府の鉱工業生産指数の動向については、これらの影響に留意する必要がある。

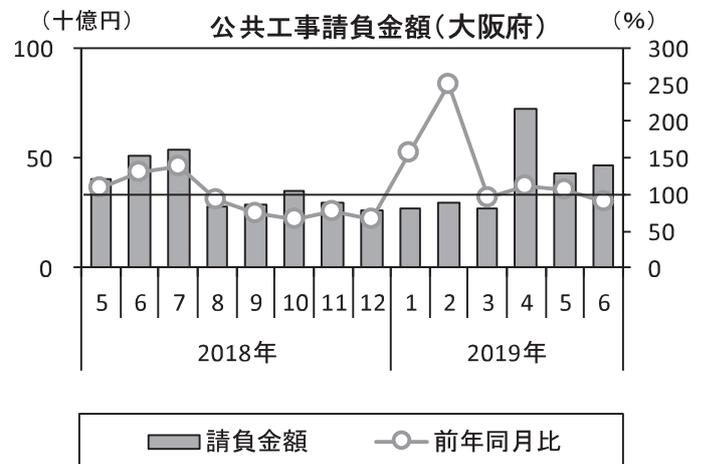


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」大阪府「大阪の工業動向」

## 公共工事請負金額

公共工事請負金額(6月)は、前年比9.2%減となった。前年を下回るのは3か月ぶり。ただし、4~6月の累計請負金額は前年同期比3.2%増となっている。

2017年度以降、減少傾向が続いていた請負金額だが、国・市町村発注工事(道路工事、公共施設建設工事等)が増加しており、持ち直しの動きが見られる。



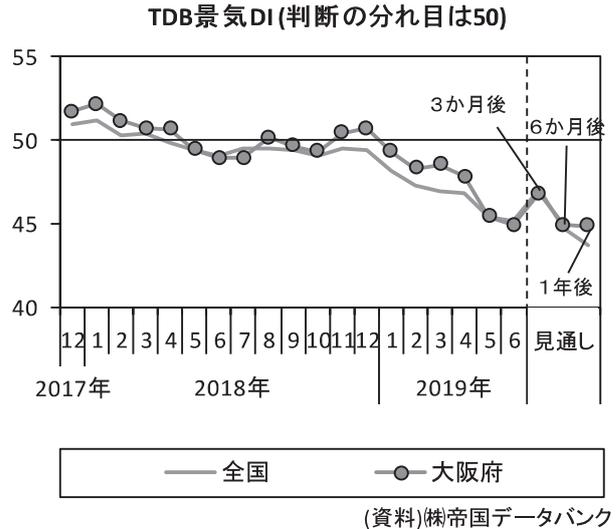
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

## 景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

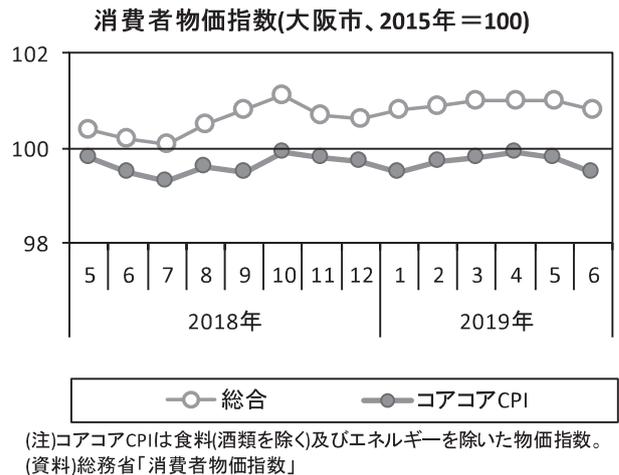
昨年 12 月には 50 超の水準にあった景気 DI だが、その後は下降が続き、6 月は 44.9 まで下降した。建設業、サービス業では景気 DI は 50 超を維持するも、卸売業、製造業で景気 DI が大きく下降している。

帝国データバンクは、「今後は米中貿易摩擦の動向や、消費税増税など不透明感がぬぐえぬ中、さらなる悪化が懸念される」としている。



## 消費者物価指数

消費者物価指数 (大阪市) は総合及びコアコア CPI とともに前月から下降した。生鮮食品を除く食料の価格は上昇傾向にあるが、生鮮食品価格は下降している。電気代・ガス代も下降しており、総合指数の下降につながった。また、家庭用耐久財についても価格は下降しており、通信料金については、通信会社の新料金プラン導入により前年比 4.9% の下降となった。



## 有効求人倍率

有効求人倍率 (6 月) は前月から 0.02 ポイント下降し、1.80 倍となった。4 月にかけて 4 か月連続で減少していた有効求職者数が 2 か月連続で増加している。有効求人数も高い水準を維持しており、建設業や運輸業などで新規求人数が増加している。

このような状況の中で、事業者が希望通りの人員数を確保できているかを数値で表した「充足率」は低下傾向にあり、府内事業者の人材確保難は依然として厳しい状況にある。

